

外国語活動学習指導案

指導者 三原市立久井小学校

教諭 徳重 雄大

ALT Sofara Aiono

- 1 日 時 平成 26 年 7 月 10 日（木）第 3 校時
- 2 場 所 第 6 年 2 組教室
- 3 学 年 第 6 年 2 組（男子 12 名，女子 12 名，合計 24 名）
- 4 単 元 Lesson 5 Let' s go to Italy. ～友だちを旅行にさそおう～
- 5 単元について

（1）単元観

本単元では、外国語を使って友達に行きたい国を尋ねたり，答えたりする活動や，自分のおすすめの国を友達に伝わるように紹介する活動を取り入れて行く。活動では行きたい国の尋ね方や答え方（言い方）をゲームや Chant で繰り返し言うことで慣れ親しませるようにしていきたい。また，友達に行きたい国を答えたり，おすすめを紹介したりすることを通して，児童はその国の特徴やよさに気付くことができる。更に，友達にインタビューをし，友達の行きたい国とその理由を知ること，自分と友達は行きたい国が同じでも理由が様々であることに児童が気付き他者理解へと繋がる機会となる。

しかし，ゲームや Chant を繰り返し行う中で，児童が行きたい国の尋ね方や答え方を理解することのみで終わらないよう注意しなければならない。「問いに対する答え」であり，それは，他者とのやり取りであることを意識させたい。

本単元を通して，行きたい国について尋ねたり，答えたりする外国語表現に慣れ親しませるだけでなく，友達の新しい一面に気付かせることで，児童の道徳的な面も育てていきたい。

“Let' s go to ～.” “Where do you want to go?” “I want to go to ～.” の言い方を使った学習は，中学校第 1 学年での，「where」を使った文を学習する単元（LESSON3 My School 【NEWCROWN ENGLISH SERIES1 三省堂】）や，中学校第 2 学年での，「want to」を使った文を学習する単元（LESSON5 My School 【NEWCROWN ENGLISH SERIES2 三省堂】）につながる。

（2）児童観

本校は昨年 4 月に 4 つの小学校が統合し，学級の人数も大幅に増えた。また，本学級の児童は明るく活動的で何事にも積極的に取り組むことができ，男女の仲が非常に良い。

外国語活動について 6 月にアンケートをとった結果，24 名中 22 名が「外国語活動の時間が好き。」と答えている。好きな理由は，「友達との交流が楽しいから。」「知らない英語を知るのが楽しいから。」「英語が話せるとうれしいから。」など友達とのかかわりや外国語を学ぶ喜びを挙げる児童が多かった。他にも「ゲーム・歌・チャンツなどが楽しい。」という意見が多かった。しかし，外国語を話すことが得意か苦手かというアンケートに対しては，「苦手」「少し苦手」という児童が 24 名中 11 名もいて，外国語活動を楽しみながらも苦手意識を持つ児童が多いことがわかる。苦手意識を持つ理由として，「どう言えばよいか

分からないから。」「普段使わない言葉だから。」などがあつた。実際に、ペアやグループでは大きな声で発言できても、全体の前では小さな声になってしまったりする児童が何人かいる。また、日本語以外の言葉に親しみを持っていない児童がいることもわかった。

- ※ 特に支援を要する児童Aは、集中力がなかなか続かなかつたり、ゲーム性のある活動に取り組むと急にテンションが高くなって周りの状況や、活動の目的が見えなくなったりすることがある。児童Bは、自ら友達に話しかけることが難しく、友達とのかかわりがなかなか持てない実態がある。

(3) 指導観

指導にあたっては、3つの工夫を取り入れていきたい。

1 つ目は、友達とのかかわりの場を多く設定していくことである。児童は外国語活動の時間が好きな理由として友達とのやり取りを多く挙げていた。外国語を楽しく学ばせることでより興味関心を持たせるとともに、友達とのやり取りの中で自分と友達との違いに気付かせ、それを認めさせるようにしたい。

2 つ目は、人前で外国語を話すことに苦手意識をもつ児童への支援を取り入れていくことである。具体的には、児童が活動を理解しやすいように HRT と ALT が連携して児童のよきモデルとなり、進めていくことである。また、尋ね方や答え方において、言い方をアドバイスしたり、できていることをしっかり褒めたりして児童に自信を持たせるようにし、全体でも大きな声で発言できるようにしていきたい。

3 つ目は、視覚的に支援していくことである。活動の中で児童が今何を意識しなければならないのか、板書に示して支援していきたい。具体的には、挨拶・会話の中では「Clear voice・Eye to eye・Smile」、インタビューの中では「他者とのやり取り」であることを意識させたい。

以上の3つの工夫を取り入れて単元を進めていきたい。

- ※ 児童Aに対しては、集中力が続くよう定期的に合図を送ったり、意図的に指名して発言させたりする。更に褒めたり、認めたりすることで児童Aのやる気を持続させるようにしていきたい。また、児童Aが活動の目的を見失わないように個別に声掛けをしていきたい。

児童Bに対しては、友達に積極的に話しかけることができるよう、個別に言い方の練習をしたり、できていれば褒めたりして自信を持たせていきたい。また、友達とのかかわりの中では、ペアやグループの児童と一緒にあって共感的な声掛けをし、児童Bが「友達に話して良かった。」と思えるような雰囲気をつくっていきたい。

6 単元目標

- (1) 自分の思いがはっきり伝わるように、おすすめの国について発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりしようとする。
- (2) 行きたい国について尋ねたり、答えたり（言ったり）する表現に慣れ親しむ。
- (3) 世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付く。

7 単元の評価規準

- (1) 自分の思いがはっきり伝わるように工夫して、おすすめの国について発表したり聞いたりしている。
- (2) 行きたい国について尋ねたり，答えたり（言ったり）している。
- (3) 世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付いている。

8 単元計画（全4時間）

時	目標と主な活動	評価			
		コ	慣	気	評価規準〈方法〉
1	国名の言い方を知る。 【P 1】 「() に国名を書こう。」 【L 1】 「どの国の世界遺産か考えよう。」 【P 2】 「国旗クイズを作ろう。」 ○「先生が行きたい国クイズ」ヒントを聞いて,指導者がどの国に行きたいのか考える。 【C】 “Let’ s go to Italy.” バージョン①				本時では，原則として評価結果は記録しないが，目標に向けての指導は行う。
2	行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 ○「ミッシングゲーム」 【C】 “Let’ s go to Italy.” バージョン① ○「キーワードゲーム」 【C】 “Let’ s go to Italy.” バージョン②③		○		・行きたい国について尋ねたり言ったりしている。 〈行動観察〉 ・行きたい国について聞いている。 〈行動観察 ・振り返りカード点検〉

3 (本時)	行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 ○「キーワードゲーム」 【P 3】「友達に行きたい国をインタビューしよう。」 【L 2】「わかったことを書こう。」		○	○	・行きたい国について尋ねたり言ったりしている。 〈行動観察〉 ・行きたい国について尋ねたり言ったりしている。 〈行動観察〉 ・自分と友達の他国に対する感じ方が違うことに気付いている。 〈振り返りカード点検 (単元末)〉
4	世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付くとともに, 自分の思いがはっきり伝わるようにおすすめの国について発表したり, 積極的に友達の発表を聞いたりしようとする。 【C】 “Let’ s go to Italy.” バージョン②③ 【A】「おすすめの国を紹介しよう。」 音声教材を聞いてわかったことを誌面に書く。次に, 自分のおすすめの国を発表し合う。	○		○	・自分の思いがはっきり伝わるように工夫して, おすすめの国について発表したり聞いた りしている。 〈行動観察 ・振り返りカード分析〉 ・世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付いている。 〈行動観察 ・振り返りカード分析〉

9 本単元で扱う外国語表現

I want go to Italy. Where do you want to go? Let’ s go.

America, Australia, Brazil, China, Egypt, France, Greece, India, Japan, Spain, eat, see

また, 本単元では以下のような言葉を教師が褒める際に取り入れていきたい。

Good try, Good, Good job, Very good, Excellent

10 本時の目標

- 行きたい国について尋ねたり, 答えたりする表現に慣れ親しむとともに, 自分と友達と

の考え方の違いに気付くことができる。

1 1 本時の展開

過程(分)	学習活動	・指導上の留意点 ◎評価規準（評価方法）
挨拶・導入 (2分)	○あいさつをする。	・ Clear voice, Eye to eye, Smile の3つを意識しながら、挨拶できるようにする。
(5分)	○国旗、世界遺産の確認をする。 ・ どの国旗か、世界遺産は何か答える。 ※ デジタル教材、ピクチャーカード ○課題を確認する。 友達に行きたい国をインタビューしたり、答えたりしよう。	・ ALT が国旗やピクチャーカードを示し、「What country is this?」や「What is this?」という問いに答えさせる。
展開① (2分)	○ 行きたい国を尋ねたり答えたりする練習をする。(前時の確認) ・ 「Where do you want to go?」 ・ 「I want to go to～.」 ・ 「Why?」 ・ 「Because I want to see(eat)～.」	・ ALT に続いて児童に言わせ、リズムカルに行く。 ・ 単語ごとにゆっくり聞かせたり、言わせたりする。
(5分)	○「キーワードゲーム」 ・ 「Where do you want to go?」と尋ね、ALT がキーワードの国名を言ったら消しゴムを素早く取る。	◆個別に指導したり、自信が持てるよう言葉かけをしたりする。(A・B児童) ◆児童の行動をよく見て、がんばっているところを認めていく。(B児童) ◎「Where do you want to go?」の表現に慣れ親しんでいる。〈行動観察〉 ・ 「I want to～.」の表現や国名の言い方に慣れ親しませる。 ◆消しゴムを素早く取ることのみに気を取られないよう、国名を注意深く聞くように声を掛ける。(A児童)

(19 分)	○友達に行きたい国をインタビューする。 【Activity】 ・ 班の中で尋ねる側（3 人）と答える側（1 人）に分かれて、行きたい国を尋ねたり、答えたりする。また、その理由も言う。	・ HRT と ALT のやり取りを手本として見せ、児童にイメージを持たせる。 ・ Clear voice, Eye to eye, Smile の 3 つを意識しながら活動に取り組ませる。 ・ 行きたい国を答えるだけでなく、その理由も言わせる。 （各国ごとに食べたいもの、見たいものを決めておく。） ◎「Where do you want to go?」や「I want to go to～.」の表現に慣れ親しんでいる。〈行動観察〉
展開② (7 分)	○「わかったことを書こう。」 ・ 音声教材を聞き、わかったことを書く。 ※ デジタル教材を使用し、ハイフレンズに書きこむ。	・ フランスはエスカルゴ（かたつむり）を食べることを知ることを通して、世界各国では独特の食文化があることに気付かせる。
振り返り (5 分)	○本日の活動を振り返り、次時の予告を聞く。 ※ 次時の予告ではデジタル教材を使用する。 ○挨拶をする。	・ 全体や個人の頑張りを評価する。 ・ 児童の態度で良かったところを児童同士で認め、褒めるようにする。 ・ Clear voice, Eye to eye, Smile の 3 つを意識させる。

※◆は、“特に支援を要する児童への手立て”を示している。

7/10

Lesson 5

友達に行きたい国をインタビューしたり、答えたりしよう。

Clear voice

Eye to eye

Smile

世界遺産
カード

世界遺産
カード

世界遺産
カード

世界遺産
カード

世界遺産
カード

世界遺産
カード

世界遺産
カード

世界遺産
カード

アメリカ

写真

写真

インド

写真

写真

フランス

写真

写真

日本

写真

写真

中国

写真

写真

オーストラリア

写真

写真

エジプト

写真

写真

ブラジル

写真

写真

ギリシャ

写真

写真

スペイン

写真

写真

Where do you want to go?

I want to go to ○○○.

Why?

Because I want to see ○○○.

Because I want to eat ○○○.

各国において見たり食べたりできる物を
写真で示しておく。